

書 燈



写真：読書週間行事 大西寿男氏講演会

「言葉が伝わるよろこびを - 本を支える校正の仕事」

図書館の役割、私の役割

平野 和

今年度から地域連携推進担当として、各館を運営する指定管理者の皆様と接する機会が多くなった。各区の図書館に訪問してお話することで、現場で働く司書の想いに共感したり、提出される企画書や運営報告を拝見し、そのアイデアの豊かさにはいつも感心させられたりしている。近年は利用者のニーズも多様化しており、どのようなサービスやイベントが喜ばれるかを、地域の特性も踏まえつつ各館が考え、新しい挑戦を行っている。

そんな中、折に触れて、司書として歩き始めた頃の記憶が蘇る。私が昔お世話になったある館長は、物事を常にいろんな分類で見ること、と事あるごとにおっしゃっていた。地元施設との連携イベントも、司書ならではの視点を入れ込むこと。自由な発想で取り組めばいいんだと、この教えはしっかり私の中に根付いている。また、新規のイベントを計画するときは、この先もずっと続けていけるものか、「持続可能性」という観点から熟考される館長もいらっしやった。今では当たり前となったSDGsという言葉に耳にする度、その姿が思い出される。

今、各館で企画されるものの背景にこのような場面があることを想像すると、そこで働く司書がアイデアを出しあったり、協力しあったりする姿が思い浮かび、神戸市立図書館の一員として心強く感じている。

図書館と利用者の付き合いはとても長い。子どもの頃は親に連れてきてもらっていたけど今度は自分の子どもを連れてきたよ、とか、学生の頃よく通っていた青春の場所です、とか、図書館でよく聞く嬉しい声たちからは、昔も今も変わらず図書館がそばにあること、安心できる空間と、その時その人にとって必要な本があることという基本的で重要な視点を再認識させられる。これら基本的に整えておくべきことなくして図書館は成り立たない。

だからこそ、常にアンテナを張り今まさに必要とされるものを的確に見極め利用者に提供する一方で、今、図書館の行事に参加してくれている子どもたちが大人になったとき、昔を懐かしく思い出しながら参加できる行事を続けていくことも忘れてはならないと思う。

時代と共にますます広がる図書館の役割に、戸惑う場面も多くあるが、ランガナタンの「図書館は成長する有機体」とは、現代の司書が頭を悩ませて生み出す企画や日々の積み重ねの上に実現されるものなのかもしれない。

難しい問題もあるけれど、脈々と受け継がれる司書の仕事に誇りをもち、市内の12館を結ぶ役割として、声をよく聴くこと、素直な気持ちで取り組みを応援することを大切にしたい。そこに利用者の笑顔と、働く司書の笑顔があることを切に願う。

(総務課係長)

市立図書館のクラウドファンディング

1. はじめに（お礼）

市立図書館では2023年8月7日～11月5日の間、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを実施した。使途は児童書と児童コーナーの備品等の調達とし、目標額として300万円を設定したところ、開始から39日目には目標額に到達し、終了時には目標額をはるかに超える925万7千円ものご寄附をいただいた。支援してくださった多くの皆さまの温かい気持ちに、心から感謝申し上げます。



（クラウドファンディングポスター）

2. ふるさと納税制度の活用

2008年に始まったふるさと納税制度は人口に膾炙し、総務省の発表によれば、2022年度の寄附総額は9,654億円で、前年度より1,351億円（16.3%）増加し、3年連続で過去最高を更新しているという。行政サービスへの旺盛な需要に対して、生産年齢人口の減少や超高齢化社会といった社会動態の変化、さらには近年の物価高騰により自治体の財政状況はきわめて厳しい。図書館としても既存の運用予算の制約から外れて、新たに財源を確保しようとするれば、ふるさと納税制度の活用は有力な選択肢となる。

神戸市では、まちの賑わいづくりや駅前再整備の一環として図書館の建設ラッシュが続いている。2019年の北神図書館を皮切りに、21年に名谷、22年にKIITO三宮と新西を開館させた。今後も25年に新垂水、26年に新北、28年頃に新三宮と続々と開館させる予定である。一方で、灘や兵庫、新長田、須磨といった図書館の再整備は現時点で未定である。

そのような状況下で、今回のクラウドファンディングでは、市内12のどの市立図書館においても、次

代を担う子どもたちがたくさんの魅力的な本と出会い、ゆっくりと本の世界を楽しめる環境を整えることを目標とし、結果として大きなご支援を得た。皆様からのご寄附は、児童書の購入や児童コーナーの改修費用、備品購入等に活用する。また、用意が整った時点でWEBサイトでも公表する予定である。

児童書購入以外の使途予定内容（一部）

購入館	購入内容等
中央図書館	児童コーナーの棚（赤ちゃん絵本用）
灘図書館	動物スツール
兵庫図書館	レザー張り丸スツール
新長田図書館	回転式書架
須磨図書館	児童コーナー周辺改修費用

3. 効果的に実施するために

今回の取り組みは中央図書館としては全く初めてのものであり、企画調整局産学連携推進課からの助言も得ながら進めていった。そこで得た知見を今後同様の資金調達を実施する際の参考として書いておきたい。

まず、寄附の募集においても広報の鉄則が重要である。それは①伝えたいことは明瞭かつ魅力的にし、②繰り返し伝えることで認知度をあげる、③伝える時期を見計らうといったことである。

今回の取り組みで言えば、①については寄附を募るための文章や写真について何度も推敲した。②については募集期間中はアクセス数の多い図書館トップページとOPACに特別な表示を続けた。③の時期については、ふるさと納税制度の場合、期間が特に大きく影響する。一般的に年末に増大する傾向があることをふまえ11月までとしたが、今回は23年10月から制度変更があったことから、変更前の駆け込みの寄附需要を享受することができた。

4. 関連イベント

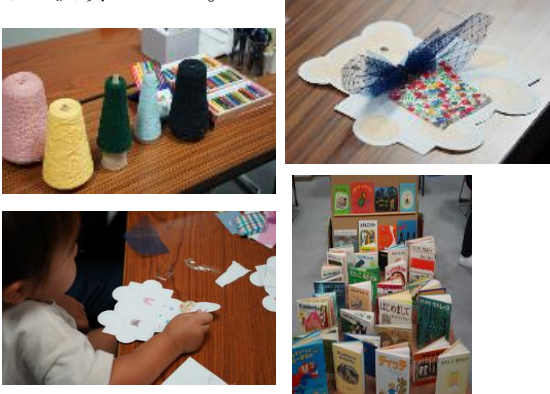
今回のクラウドファンディングと関連して、その返礼品の提供企業でもある株式会社ファミリア（以下、「ファミリア」と記載）とのコラボイベントを、8月17日に中央図書館にて開催した。コラボは企画調整局産学連携推進課の橋渡しによるもので、図書館と企業との活動連携のほか、クラウドファンディングPRの一助ともなる位置づけである。

「ファミリア×神戸市立中央図書館 しおりをつくろう！空想図鑑『なんの本をよんでいるのかな？』」は、元々ファミリアで行っている「空想図鑑」というイベントのノウハウを使い、図書館らしくし



おりを作るというものである。しおり材料はファミリア製品で使われている生地や端切れやリボン、縫製用の糸等で、すべてファミリアからの提供である。

当日は、事前申込だけでなく、飛び込み参加もあり、大人8人、子供13人で実施した。初めに、ファミリアの企業活動としてSDGsの取り組みの説明、続いてのしおり作りとなった。大人も子供も、いぬやくま、うさぎの形に切り抜かれた用紙に、端切れやリボン、縫製用の糸等を自由に使って、しおりづくりに没頭していた。



(写真：ファミリアコラボイベント風景)

会場には自由に手に取れるように絵本を並べ、図書館らしい雰囲気の中で工作を楽しんでもらうとともに、終わりには、図書館の紹介と図書館で作成している年齢別絵本紹介冊子の「えほんの小箱」をお渡しして、イベントは終了した。企業コラボの結果、ファミリアの素材を使ったオリジナルのしおりを完成させるという通常とは異なる工作会となり、参加者の満足度も高いイベントとなった。

5. クラウドファンディングを終えて

図書館はこれまでもずっと市民や企業から図書の寄贈や寄附を頂戴してきた。一般財団法人みなと銀行文化振興財団のように10年近く寄附を続けてくださるケースもあれば、ご自身の年金の一部を2年にわたり寄附してくださったケース、故人の遺志という形での寄附もある。心から感謝を申し上げたい。

近年、ふるさと納税やクラウドファンディングに限らず、寄附や贈与の文化が広がりつつあるようである。米国では図書館が寄附を募ることは当たり前とされると聞く。寄附は共感や信頼、愛されていることの現れであり、そのような思いが今回のような多額の寄附という形の応援につながったのではないだろうか。これからの図書館運営において、既存の方法だけに頼らず様々な手法で市民や企業からの支援を得ていくことも必要となってくるが、いつも市民から見つめられているのは、図書館本来の使命を果たそうとする姿勢であると肝に銘じておきたい。

〈新規採用職員エッセイ〉

理想の司書をめざして

篠原 吉乃

図書館で働き始めて早くも1年が過ぎようとしています。私は小さい頃から地元の図書館に通い、カウンターで働く司書にあこがれを抱いて「将来は司書になる！」と言って大学まで進みました。しかし、狭き門といわれる司書に本当になれるのか不安と葛藤を感じて迷走していた時期もありました。心が挫けそうな時にいつも頭に浮かんだのは大学時代に受けたあるレファレンスサービスです。レポート課題の資料について司書に問い合わせたところ、入門書から専門書まで幅広い資料を見つけていただきました。自分では見つけられなかった資料が短時間でたくさん出てきた感動は今でも忘れられません。理想の司書像が明確にできた瞬間でもありました。

調査相談ラインに配属されてからは窓口や電話などで毎日様々なレファレンスを行っています。自分の知識・経験不足を申し訳なく思い、これからもたくさん勉強が必要だと痛感する日々です。先輩方に支えていただきようやくレファレンスを終えられたとき、少しは役に立てたかなと感じました。拙いレファレンスの中で「こういう本を探していた」というお言葉をいただけると嬉しく思います。配属当初よりも早く本を検索できるようになったことや一つの事柄に対して複数の分野から検索することで求めている情報にたどり着けたことなど日々の進歩は些細なものですが、一步一步着実に成長していきたいです。

調査相談ラインでは資料展示も担当します。利用者の興味関心を引く展示内容やテーマに沿った展示本を選ぶのは難しいですが、立ち止まって展示の本を見てくださったり、展示した本が貸出されたりするととても嬉しいです。少しでも多くの方に図書館の本を手にとってもらえるようにこれからも工夫をしていきたいです。

公共図書館は誰でも無料で一定の確実性のある情報を得られる場所であると思います。そして、情報は将来の選択肢を増やせる手段であると考えます。人と本を結び、図書館の本を使って利用者の疑問の解決や学びに貢献することが私の目標です。図書館を身近な情報センターと感じていただける場所になりたいと考えています。

(利用サービス課)



―神戸キワニス子ども文庫おはなし会の開催―

2023年9月9日に「神戸キワニスクラブ」がサポートする「カネディアン・アカデミイ・キークラブ」所属の高校生による、英語のおはなし会を開催した。大人17人、子供21人の参加があり、1対1の読み聞かせも大盛況だった。(利用サービス課係長・棟安)

―2023年度 読書週間行事 大西寿男氏講演会―

2023年11月12日、神戸市出身の校正者・大西寿男氏をお迎えし、講演会「言葉が伝わるよろこびを―本を支える校正の仕事」(参加:82人)を開催した。

大西氏は、実際に文章例を挙げて校正の仕事を説明され、知識や記憶をあてにせず調べることが校正の基本であると述べられた。それに欠かせないのが辞書であり、国語辞典の引き比べをされて、その面白みに会場は沸いた。「辞書と図書館は校正者の一番の友達であり強力な味方」と、図書館員にとって大変励みになる言葉をくださり、ネット上とリアル双方の図書館活用術を話された。また、阪神・淡路大震災後に一人出版社を立ち上げ、高校時代の師の対談集を出版したことにも話は及んだ。

校正者としての自分のベースには、子どもの頃からの母親との会話があるという。その楽しい言葉のキャッチボールの体験が無かったら、言葉に希望や信頼を持ちづらかったらどうとの話が印象的であった。それは前半の「本づくりはチームワーク、目指すのはただひとつ、よい本をつくること」という話につながり、活字や本の力を信じている人たちによって本がつくられているのだと感じられた。終わりに、どんな言葉も生き生きと届くように「一人ひとりの胸に“小さな校正者”を」と結ばれた。

(利用サービス課係長・問屋)

―連携展示「アフリカってどんなところ？」―

2023年10月20日～11月12日の間、中央図書館でアフリカに関連する本を約160冊展示した。この展示は「アフリカ月間 in 神戸×AFRICA meets KANSAI 2023」に合わせて、経済観光局との連携展示として行ったものである。(利用サービス課・吉田)

―防災展示「地震にそなえよう？」―

防災科学技術研究所、危機管理室と連携し、2024年1月12日～26日に中央図書館1階で防災展示「地震にそなえよう？」を実施した。同研究所と本市は昨年、災害対応の向上を目指す包括連携協定を締結。パネル21枚とともに子ども向け非常用持出袋などを展示し、パンフレットの配布、展示内容に沿った震災関連資料の紹介・貸出を行った。令和6年能登半島地震の影響か、足を止める人が多く関心の高さがうかがえた。(利用サービス課・北澤)

―図書館への児童書寄贈について―

一般財団法人みなと銀行文化振興財団から、灘図書館49冊、西図書館54冊(各10万円相当)の児童書を寄贈いただいた。2016年度より毎年2館へ寄贈いただき、両館へは2度目。また今回は不織布バッグ840枚も頂戴した。(利用サービス課・濱口)

―一年末年始の返却ポストの利用停止について―

館併設の返却ポストは年始開館時の混雑を防ぐため利用を停止した(駅等に設置したポストは例年通り停止)。目立った苦情やトラブルはなく、年始の開館もスムーズに行えた。(総務課課長・村井)

―地域館トピックス―

【新聞エコバッグづくり】

2023年8月5日と11月25日に垂水図書館、12月1日に名谷図書館、12月23日には東灘図書館で、新聞エコバッグづくりのイベントを開催した。NPO法人フクロウの夢との共催。5月に行った中央図書館でのイベントに続いての開催となった。



【メトロこうべ「憩いの場」で読み聞かせ】

2023年10月13日、高速神戸駅と新開地駅を結ぶ地下街「メトロこうべ」に、都市局交通政策課により絵本の棚やベンチのある「憩いの場」が新設された。神戸高速鉄道株式会社ほかと連携し、三宮図書館では11月26日に特別出張おはなし会を、兵庫図書館では12月24日に「絵の本ひろばとよみきかせ」を開催した。参加人数は少なかったものの、遠くに電車の音を聞きながら電車の絵本を読み聞かせるゆったりとした時間になった。(総務課・大野)

会議	8.4	近畿公共図書館協議会第1回理事会
	8.17、9.20、10.26、11.28、12.26	中央図書館職員安全衛生委員会
	8.24	第8期第2回神戸市立図書館協議会
	9.19、10.17、12.1	経済港湾委員会
	10.4	決算特別委員会(局別審査)
研修	10.19	館内研修(防火活動について)
	12.21	館内研修(図書館の課題について)
工事	7.24～12.26	中央図書館屋上防水他改修工事
	10.9～12.25	中央図書館4階空調設備工事
その他	11.29	市民満足度調査
	12.21	中央図書館消防訓練
	12.22	こうべ子ども文庫連絡会、神戸・図書館ネットワークとの交流会